■GGG+フォーラム東京2018「日本の知見でTICAD7を成功に!」

■2018年12月3日開催(ルポール麹町)

■参加者

世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund)、Gaviワクチンアライアンス、グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)、国会議員、総理大臣官邸、外務省、財務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、各国大使館、ケニア国保健省、国際機関、民間企業、アカデミア等

■内容

第1部では、グローバルヘルスと感染症対策について研究開発・臨床試験の観点から、日本企業を含む団体が発表を行い、課題を共有した。鈴木康裕厚生労働省医務技監は、大切な3つの要素として、①国際保健へ注力することが日本にとってタイムリーである、➁医療に限らず幅広い分野への投資が必要である、③新旧テクノロジーの活用において日本が貢献できる、と総括した。第2部では、口腔ケアの重要性、昆虫食、現地の管理栄養士育成、「生活習慣調査」開発、教育プラットフォーム構築といった様々な角度から栄養改善の議論がなされた。第3部：アフリカ健康構想って何？には、日本政界きってのアフリカ通である日本・アフリカ連合AU友好議員連盟会長と会長代行も参加した。日本企業の自律的なビジネス展開と公的支援を両輪とする本構想において、複数の日本企業がプラスチック製トイレ、浄化槽、ドローン、ニームの活用といった、アフリカでのビジネス展開について発表を行った。